

洪水の減少と生き物

環境

第1章 十勝の平野や川ができるまで



洪水があると(上)、あとに何も生えていない石原が残る(下)。札内川。



ケショウヤナギの木。円内は白く「けしょう」をした若い枝。

洪水が少なくなると、畑や住宅だけでなく、川ぞいに生える自然の木や草も流されにくくなります。それなら、自然にとってもいいことばかりなのでしょうが？

木や草には、種類によって、それぞれ生えやすい場所生えにくい場所があります。早く大きくなる木、おそく大きくなる木もあります。

例えば、ヤナギの木は、水ぎわのしめったところに生え、木としてはとても早く大きくなります。一方カシワの木は、水からはなれた丘の上などに生え、最初はほかの木の間から、ゆっくりと大きくなっていきます。

十勝の河原を代表する木に、ケショウヤナギがあります。この木は、国内では十勝と長野県の上高地など、ごくわずかな場所にしか生えていません。(p64)

第2章 先史時代と川

第3章 アイヌ文化と川

第4章 十勝開拓と川

第5章 発展、今、そして未来へ

用語

さくいん



石の間から生えてきたケショウヤナギ。

ケショウヤナギの生える場所

ケショウヤナギは、石がゴロゴロした、草もほとんど生えないような所から生えます。土があって、ほかの木なら喜んで生えそうな場所には育ちません。

そういう場所は、洪水が起き、石が運ばれてたまることでできます。つまり、ケショウヤナギは洪水が起きないと、新たに育つことができないのです。

かといって、ケショウヤナギでも、育ち始めてから洪水が来たら流されて死んでしまいます。

木にしては早く大きくなりますが、高さ15mほどのもので、生えてから20年くらいかかっています

ケショウヤナギが育つためには

ケショウヤナギが育つためには、まず大きな洪水があって石(れき)が厚くたまり、あるいは草木や土が流され、その後は、しばらく大洪水にあわないような場所が必要です。

洪水のあと、川の流れる場所が大きく変わらなないと、こうした場所はあまりできません。

以前の十勝の川は、洪水によってたびたび流れが変わっていました。しかし、流れが整えられ堤防が整備されたことで、洪水が減り、大きな変化がなくなりました。以前よりは、ケショウヤナギが育ちにくくなっているかも知れません。

ケショウヤナギは、札内川を中心とした十勝の川ぞいでは、たくさん見ることができます。これからも身近な木であり続けてほしいものです。



(左)大きくなったケショウヤナギ。(右)綿毛に包んだタネを飛ばす。大きく育つためには、あまり水につからない方がいい。